



特別講演

「高次脳機能障害」

なやクリニック 副院長
納谷 敦夫 先生

当院へまた高名な先生をお招きいたしました。4月15日(水)14時からの講演会には、院外からの来客約20名、職員100名以上が参加しました。

納谷先生は、永い間大阪府健康福祉部部長として大阪府の医療行政に携わってこられた大変高名な先生です。大阪府障害者福祉事業団理事長を勇退後、堺市で開業し、特に高次脳機能障害の治療、デイケアでのリハビリテーションを積極的に行っておられます。

高次脳機能障害とは、交通事故などの脳外傷や脳血管障害、脳炎などの病気により脳が傷つくことで障害が起こります。この傷の場所や程度によって、注意障害【周囲の状況に無頓着、同じ作業が続かない】記憶障害【約束が守れない、片付けたものを盗まれたという】遂行機能障害【段取りができない、

用意が間に合わず遅刻する】等々、様々な症状が出てきます。神経症になることもあります。

障害を伴う前とは、全く別人のように見えることもあり、家族の戸惑いや悲しみは大変大きなものです。先生は、治療やリハビリテーションとともに家族会などの家族支援(堺で脳損傷協会の役員として家族支援や福祉サービスの情報提供など)を積極的に展開されています。今回、多くの写真で高次脳機能障害について、障害そのものや、家族の心理などとても丁寧にご説明くださいました。とても有意義な講演会でした。

講演後は、院外から参加の方々と、当院スタッフが先生を囲み、懇親の場を持ちました。短い間でしたが、地域連携という意味でも大変貴重なひと時でした。



基本方針

人 権を重んじ、患者さんやご家族の「心のふるさと」になれるよう、患者さんの立場に立ったやさしい医療をおこないます。

最 新の医療知識と技術を身につけ、予防から急性期治療・リハビリテーション・在宅支援まで継続的な質の高い医療を提供します。

光 と風と緑」にあふれた、安全で快適な療養環境を提供します。

地 域の拠点病院として、行政機関や病医院・地域の方々と連携し、保健・医療・福祉に貢献します。

信 頼される医療サービスを提供するために、経営の健全化につとめ、すぐれた医療従事者を育てます。

院内

花

院内の花が一段と美しく咲き競う季節です。
美しい花の季節をお楽しみください。

だ
よ
り



光風緑

さつき

つつじ科 開花時期は5/10～6/20頃
旧暦の皐月(5月)に咲くことから命名。
「皐月躑躅」を省略したもの。つつじの一種。

江戸時代から人気があって園芸化が進み現在、1500種ほどもあるらしい…。院内では正面玄関花壇一面に真っ赤に咲き誇っています。当院の一番美しい時期です。

外来診察表

外来診察時間 / 9:00～12:00(受付は11:30まで)

	月	火	水	木	金	土
診 察	2 診	黒田	中井		横田	黒田 横田
	3 診	松島	野村	松島	野村	横井 横井
	5 診	西側	梶本	植田	梶本	西側 植田
	6 診	西村	山田	西村	三秋	相馬 小深田
	7 診	村上	清水	吉田	中井	清水 呉谷
睡眠外来	黒田	黒田・野村	野村	野村	黒田	黒田
小児精神科外来	横田	横田		横田	横田	横田
専門外来	往診相談 外来	女性外来	口腔心身症 外来	物忘れ 外来		

専門外来(睡眠・小児・往診・女性・物忘れ・口腔)は予約制です
医療機関からの入院・転院のご相談は
地域医療連携室で承ります。

電072-278-0381 電072-281-6615



診療科目

精神科 心療内科 内科

病床数

精神科救急入院病棟99床(B1,C1病棟)
精神科急性期治療病棟60床(E1病棟)
亜急性期病棟120床(B2,C2病棟)
メンタルケア病棟51床(E3病棟)
リハビリ病棟60床(E2病棟)
老年性精神疾患・認知症病棟120床(D1,D2病棟)
合併症病棟60床(D3病棟)
精神療養病棟120床(F2,F3病棟) 計690床

看護体制

精神科病棟15:1 急性期病棟13:1 スーパー救急10:1
看護師比率70%以上・看護補助10:1

関連施設紹介

訪問看護ステーションふれあい
居宅介護支援事業所
ヘルパーステーションはんず
ケアホーム/こもれび・青空・つばさ・そよかぜ
堺市中区八田南之町277 阪南病院内 電072-278-0381
ケアホームあんずの郷
堺市中区八田北町309 電072-278-2233
地域生活支援センターゆい
堺市中区深井東町3134 電072-277-9555



事業計画発表会

年度始めの病院行事「事業計画発表会」。今年度は4月4日(土) 14時から多目的ホールにて開催されました。事業計画発表会では、年度始めの組織人事の発表と病院長からの21年度事業方針が発表されます。事業方針発表は、続く各部署BSC作成での指標になるため、期待や関心は高く、今年は新人も含まれますが140名の参加者を数えました。



院長から発表された今年の事業計画タイトルは「次世代阪南病院とResponsibility」。103ページのスライドという超大作の事業計画は、新たな知識の習得あり、なるほど!納得の内容あり、耳の痛い内容あり!?で、約1時間の説明があったという間でした。

さて、この病院全体の事業計画を受けて、4月25日(土)には各セクションが職場ごとの事業計画を発表する「部門別事業計画発表会」が、そして、今年初めての試み、QC活動事業計画発表会が5月16日(土)にそれぞれ開催されています。

部門別事業計画では、診療・看護・診療支援・リハビリ・業務・薬剤・管理・付帯事業の各部門から、部門統括も含め23セクション、そして診療録管理室、事業企画推進室をあわせ計29セクションが発表しました。理事長からは、「昨年も、日本で最も活性化された病院という私たちの目標に大きく近づく1年でした。これも私たちの誓い「愛の心・和の心・励む心」を大切に日々努力した成果だと思えます。今年のキーワードは「Responsibility」。私たちの責任や期待に応えるために、「ぜひとも有言実行を!そして世界に羽ばたく病院!」にご協力お願い致します」との挨拶があり、また新たな目標に向かって、来院される全ての方に満足いただけるように、本年も努力してまいります。

各セクションの発表と併せ、「Hannan QC活動事業計画発表会」では9つの委員会・会議の事業計画が発表されました。組織を部門から各セクションという縦の流れと、委員会・会議という部門横断的な横の流れ。その両方でしっかりと目標を管理し実践することが、一層の組織力強化に繋がるのではないのでしょうか。「職員一丸となって」という言葉がより現実味を増します。そして病院全体、全員での取り組みそのものが病院を前進させる大きな原動力になります。また、昨年から活動している禁煙推進会議の発表を受けて、院長からは、徹底して禁煙へ向けた取り組みに期待したいとの力強い!コメントもいただきました。

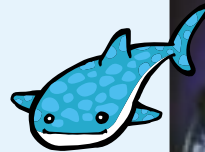
この3日間で病院全体の事業計画が終了しました。既に達成に向けた努力を日々されていることでしょう。計画的にしっかり取り組んで実りある成果を得るとともに、その先にある、「患者さんのために」という思いをしっかりと具現化していくことが求められます。

併せて、QC活動事業計画では、感染委員会で目標にしている年間「リキャップ0」の表彰が行われました。表彰は「D1」「E2」「E3」「F3」の4病棟です。

「リキャップ0」とは、針刺し事故にも繋がる、注射針のリキャップをしないということであり、日々、注射を扱う病棟で0にできたということは、徹底した意識の成果です。2週に1度の感染委員会を中心とした各病棟ラウンドが、意識の維持に繋がったのではないのでしょうか。『再度キャップをはめない』ただそれだけのことが、感染リスクを抑える効果的な方法のひとつです。それぞれの事業計画は、職員の意欲を前進させ、多くの方の満足に繋がるよう、更なる努力を続けることを改めて確認させられる3日間でした。



春の患者レク



海遊館



4月20日(月)、毎年恒例の患者さんレクが開催されました。今年は「海遊館」。晴天に恵まれる中、患者

さん、スタッフ合わせて150名が、9時半すぎに病院をバスで出発し、一路目的地へ。毎年レク会議のメンバーが患者さんの要望や、意見、アイデアを出し合っている場所の選定をします。今年は、若い方にも年配の方にも楽しんでいただける海遊館に決まり、出発間際まで、念入りな準備と確認の上、万全の体制で出発。40分ほどのバスの車中も賑やかそのものでした。

現地では、水槽のアーケードを通過、大小さまざまな魚を鑑賞する人、ベンチでゆっくりとおしゃべりする人、大きな船の模型にはしゃぐ人など、皆さん

それぞれでご自身の海遊館を楽しんでおられました。長期で入院されている方には、遠出はなかなか

ない機会です。病院から出るだけでも開放感があるのかもしれませんが。お弁当の時間も楽しそうにほおばって食べておられました。

レク会議では、病棟での誕生日会や季節の催しなど、入院生活の楽しみに様々なイベントを検討し、実行しています。患者さんには既に秋のレクを楽しみにされている方もいるでしょう。また今回のレクでは、病棟、先生方はじめ、多くの方のご協力、事故もなくいい思い出を持って帰院することができました。ありがとうございました。

7月1日「こころの日」

精神保健法の施行日(1988年7月1日)にちなんで、日本精神科看護協会は、7月1日を【こころの日】と位置づけ、精神疾患や精神障害者に対する理解を図り、こころの健康の大切さを再認識していただく為に取り組んでいます。



当院も、看護部主催で例年開催していた5月12日の【看護の日】の院内イベントを変更、病院全体での院外イベントと考え、7月1日の【こころの日】に開催することとしました。

具体的には地域へ出て、地域の方と触れ合う機会とし、近隣で血圧測定や、ストレスチェックといったイベントを開催する予定です。院内各部門よりメンバーを集め、現在検討中です。

今春より、当院でもパワーリハビリテーションプログラムが始まっています。パワーリハビリテーションは、老化や器質的障害によって低下した身体的・心理的活動を回復させ、自立性の向上とQOLの高い生活への復帰を目指す新しい手法です。日本で開発された、マシントレーニングを中心とした運動プログラムですが、マシントレーニングと言っても筋力強化を目的としたプログラムではありません。トレーニングを軽負荷で行い、全身各部の使っていない筋を動かします。それにより、「すたすたと歩けるようになった」というような動作性・体力の改善、外出するようになった」といった心理的・活動性の改善につなげる目的があります。



パワーリハビリテーション